

発見の場

はぶけても片づけても すつきりしない

食料庫の甲を片づけた

棚が古いとどかなくて解がいた

五体満足がううにはいれない

幼い時の部屋の探子も思い出してふた

物もその辺はない 何も無い

玄白としていたううだ

一人ぐうしをばじめた時は 肉取り一割きり

タニス 電 ちく ンシン 全部その甲に

ふ<sup>い</sup>てあり 食器も<sup>い</sup>も雨がさも 全部

その中におさす<sup>い</sup>てい

おさす<sup>い</sup>てい<sup>い</sup>る<sup>い</sup>でなく 整理とり入れて

あるのだ

江戸時代の長やの生活ときいた<sup>い</sup>とかが<sup>い</sup>る

寒くなる<sup>い</sup>と 質やに冬物を<sup>い</sup>り<sup>い</sup>たり<sup>い</sup> 夏物を

あぶ<sup>い</sup>ける<sup>い</sup> 部屋は<sup>い</sup>何も<sup>い</sup>ない

押入れや<sup>い</sup>と<sup>い</sup>も<sup>い</sup>お<sup>い</sup>く<sup>い</sup>と<sup>い</sup>な<sup>い</sup>と<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>が<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>る

そんな生活だ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>だ

つまり合理的だ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>だ

いつの肉にか不要なものにかこぎれさう

にたつた

物の下の扉をさしだせいか

いずれ彼と立つ　　ガラスもつたい扉で

にまうとたすつた物にかこぎれさう

私よりた知分お柔さものほ　　皆がけた

でも子にさう

一階は子あく　　あま程度見うれさううにたつた

二階は何年も行つてない

何かあすうし　　いものもあまかもし　　わあ

二階へ行つた　　うを想像してた

これは何だ　　これはおれ　　はじめて見た物が

さう　　こんな物もある

た物しみにたつて来た

手でたか家母に博物館が存在するさうだ

伊不菟見の元と原のさう　　いひ

2022  
3/28